

金沢市立城南学校

平成29年度 学力向上の取組（2学期）

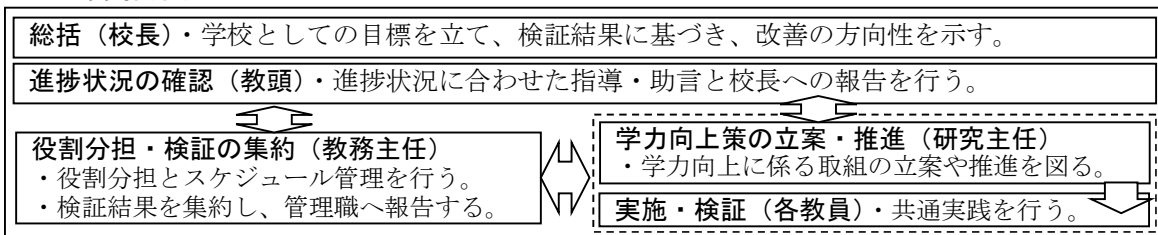
1 現状・課題(平成29年度学力分析シートから見える現状・課題)

<p>(1) 全国学力・学習状況調査、石川県基礎学力調査の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語、数学ともに国の平均正答率を上回っているが、年々その差は縮まっている。 国語Aの9五の平均正答率が68.3%で、古典に関する問題に課題が見られる。 国語Bでは、1三の比喩表現が含まれている一文を抜き出し、それについての自分の考えを具体的に書く問題、2一のアンケートの対象を考え、質問内容を考える問題の平均正答率が国の正答率を下回った。複数の条件をすべて網羅して読み取ることに課題がみられる。その他の問題は国、県の正答率をともに上回った。 社会の平均正答率は市、県をともに上回ったが、地理分野の1(7)、4(5)、歴史分野の3(4)の平均正答率が県を10ポイント以上下回った。「思考・判断・表現」及び「資料活用 of 技能」に関わる問題の正答率が低く、課題となっている。 数学B 5(3)の平均正答率が9.7%と、国の正答率を7.9ポイント下回った。的確に情報を読み取り、それを数学的な表現を用いて説明する力が非常に弱い。 理科の正答率は32問中29問、県の正答率を下回った。記述式の問題の正答率が低くなる傾向が強い。 英語の平均正答率は53.4%で、県の正答率を6.5ポイント下回った。6(1)の英文を正しい語順で書く問題の県の正答率を20.8ポイント下回った。これは一昨年度からの課題である。また、ある程度の量の英文を聞いたり読んだりして概要を理解する力が弱く、場面や状況に応じて既習事項を活用し、正しく書く力が不足していると思われる。 <p>(2) 児童生徒質問紙（金沢型学習スタイルに関連する設問等）の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業では自分の考えを発表する機会が与えられていた」「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた」の質問に「1 当てはまる」と回答した生徒の割合は国、県を下回った。 「課題を立てて解決に向けて話し合い、発表する学習活動に取り組んでいた」の質問に「1 当てはまる」と答えた生徒の割合は国、県を上回ったが、昨年を2.5ポイント下回った。 「普段1日あたりどれくらいの部活動をするか」という質問では、「1~2時間」と回答した生徒が48.5%と国の34.2%、県の44.1%を上回った。

2 重点的に行う取組と検証 ※1学期と変更した箇所は「MSゴシック体」にする

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
重点的に行う取組		「自分で考えます」では根拠を明らかにし、書くように指導し、指導時にはマグネットシート「考える」を活用する。	「自分の考えを伝えます」では発言や、お互いの考えを交流する機会を設ける。指導時にはマグネットシート「伝える」を活用する。	月一回金曜日に新聞コラムなどを読んで、自分の感想や意見を書く時間を設け、その後、それを読んで感想を書く時間をとる。(朝読書の時間15分)	全学年自学ノートに取り組みませ、時期に応じて終末課題を出す。
	検証の方法と指標	方法「自分で考える」時間が確保できた授業は週案に◎を記入する。 指標月の実施が70%以上	方法「自分の考えを伝え合」う時間が確保できた授業は週案に◎を記入する。 指標月の実施が70%以上	方法各学年全員で意見を読み、点検・添削等を行う。 指標月一回実施	方法毎日点検し、質の向上のための助言や、良い取り組みの紹介をする。 指標テストの前後で実施
	児童生徒の状況	方法生徒授業評価「課題について自分で考えていく時間がある」で確認する。 指標肯定的評価80%以上	方法生徒授業評価「他の生徒の意見を聞き、自分の考えを深めている」で確認する。 指標肯定的評価80%以上	方法理由や根拠を明確にして書いているかを重点的に点検する。 指標理由・意見が書かれている70%以上	方法週末課題を出したときは確認テストをする。 指標合格率80%以上

3 年間計画



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
8・9月	計画	研究主任 が学力向上策を立案する。 教務主任 が全体会を設定し、 研究主任 の提案を受け、 全職員 が具体的な取組について共通理解する。	岡島教諭 小堀教諭 福島教諭	研究主任 が学力向上策を立案する。 研究主任 が2学期の「リーディングタイム」の実施について提案し、その内容を全職員で共通理解する。 学年主任 が「週末課題プリント」の実施内容について提案し、 学習担当 が中心となり学年で共通理解する。
10月	実践	全職員 が「自分で考え、自分の考えを伝え合う」授業を実施する。	北村教諭 坪坂教諭 椎木教諭	全職員 で「リーディングタイム」の点検・添削を行い、 学年主任 は担当や進捗状況を確認する。 全職員「プリント集」の準備、評価に携わる。
11月	検証 改善	学年主任と教務主任 が指導の状況を集約し、学年間差、教員間差を確認する。 研究主任 が指導の状況を確認し、 教頭 とともに改善策を提案する。 全職員 が改善策を共通理解する。	橋本教諭 八尾教諭 鳩 教諭	学年主任 が「プリント集」の活用状況を確認、記録する。 学年会 で生徒の状況について把握する。
12月	検証	教務主任 が指導の状況及び生徒の状況についての達成状況をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">評価問題を「学力向上の取組（2学期）」の検証の機会とする。</div> 校長・教頭・教務主任・研究主任 が2学期の成果と課題を整理する。	舟塚教諭 本川教諭 守田教諭 小國教諭	学年会 で指導の状況及び生徒の状況について確認し、 教務主任 が達成状況をまとめる。 校長・教頭・教務主任・研究主任 が2学期の成果と課題を整理する。
平成30年1月以降は、「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践するため、各学校は以下の内容について、加除修正する必要はない。				
1月		評価問題の結果に基づき、「学力分析シート」を作成する。 分析結果から「学力向上の取組（3学期）」を作成する。		
2、3月		「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。		

